



# からしだね

2015年  
4月号 (504号)

## キリストの受難 カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸神父・松本 一宏神父  
協力司祭：デニス・マックゴワン神父  
住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26  
TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624  
URL(ホームページ)：  
[http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic\\_ikeda/](http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/)



世界遺産の島 ドイツ・ライヒェナウ島にある聖ペター・パウル教会

巻頭言 .....	2	ガラスケースの言葉 .....	3
みことばの分かち合い .....	3	アルファ・コースへのお誘い.....	4
アルファ・コースへのお誘い ...	5	新しい本が届きました .....	6
宝塚黙想の家から .....	7	「みことばの分かち合いの体験記」 の原稿を募集！ .....	7

表紙写真 提供：米花裕子

※ 聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です。  
完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください。

## 巻頭言

## 司祭への道

デニス神父

神父になろうと思ったのは小学校のときで、わたしの堅信の日でした。同じ日に400キロ離れたカンザスシティで、わたしの叔父さん（母の弟）の叙階式があったのです。母とわたしの妹は叙階式に行き、堅信式に出られたのはお父さんだけ。その日、大きくなったら、わたしも神父になるんだと考えました。

この考えは、そのあとも変わらなかったのです。逆にだんだんと強くなっていきました。通っていたカトリックの小学校では毎日授業のまえに御ミサがありましたが、侍者をしていたあいだも、その気持ちは強くなりました。

問題が出ました。13歳のとき、お父さんがガンで亡くなりました。お母さんはわたしが神父になりたがっているのを知っていたから、「神父になってほしい。お母さんが働くから、あとは大丈夫」と言いました。

お母さんは最初デパートで、そのあと聖パトリック教会で3人の神父さんのコックとして働いたのです。ハイスクールを出たわたしは御受難会の神学校に入りました。19歳のとき1年間修練を積んで3年あとには誓願をたてながら神学校の勉強を続けました。

ところが、また問題が出ました。お母さんが病気になって仕事ができなくなりました。悩みました。お母さんの世話をする責任があるから、神学校を続けることができないんじゃないか、と考えたのです。しかし妹は「大丈夫よ、わたしがお母さんの世話をするから、お兄さんは神父になって」と言ってくれました。

それで1955年3月26日にケンタッキーのカテドラルでほかの6人と一っしょに司祭叙階にあずかったのです。そのあとカリフォルニアで1年勉強しました。ちかくの教会で土曜日と日曜日ごとに、告解と御ミサの手伝いもしました。幸福な1年でした。そのあと1年してカンザスの修道院で副修練長として手伝いました。

1955年6月、管区長から手紙がきました。日本で働くようにというのです。8月の終わりに船に乗れ、という命令でした。7月の終わりにセントルイスから汽車でシカゴにゆき、日本にいよいよ出発することになりました。

セントルイスでお母さんや妹と別れるとき、「いつか帰ることがありますか？」とお母さんが尋ねました。その話は聞いていませんでした。だから返事できなかった。日本での休暇についても、なにも決まっていませんでした。あとになって6年たったら、休暇ができることが決まりました。ところが5年してお母さんが病気で亡くなりました。セントルイスの駅での別れがお母さんとの最後でした。

お母さんと妹、ふたりのおかげでわたしは神父になって、ここまで来たのです。

## 4月のガラスケースの言葉

“不幸な顔をしている人を見るたびに

「ああ、あの人はまだ何かを手放せないのだな」

と私は思います。”



(マザー・テレサ)

### みことばの分かち合い

(3月1日)

体験記：「これはわたしの愛する子。これに聞け。」 マルコによる福音9章7節

米花 裕子

わたしがいちばん憩うとき。それは、みことばにふれるとき。イエスのことばにつながって、そこにこころを整えて御用をしてゆく。

「これに聞け。」そう、先ずイエスに聞く。そうするとみことばがわたしの中で働き、みこころを悟らせ、物事をはっきりと見せてゆく。しあわせと思っていたことが、実は思い違いであったこととか、空しいことに振り回されていたことに気付いたりとか、主につながっていなかったのでさまよっていた、ということがわかりました。いまは引き寄せられ、そこでの行動に招かれ、その道を歩ませてくださり、そこから賜るよろこびのうちに生かされている。わたしのことをいちばん御存知のイエスにゆったりとお委ねして、その安心感とよろこびと、与えられる力と、思いと、慰めのなかにこれからも歩めるよろこび。主から来ることはどんなことでも、きっとそこに御計画があると信じているから嘆くこともない。

「貧しい者は労苦しても、生きるのが精一杯で、手を休めるとたちまち生活に困る。」  
(シラ書31章4節) 絶えず願うことは、みことばがその人の内に働きかけ、御力を賜り、主によって生かされていく、ということ。



# アルファ・コースへのお誘い

アルファ・コース世話役代表 松下 良博

厳しかった寒さも和らぎ、やっと春らしくなってきましたが皆様にはお変わりなくお元気でお過ごしのことと思います。アルファ・コースも当初、畠神父様の発案、ご指導のもとヘルパーの皆さんの多大の協力を得、今年で8年目を迎えることが出来ました。途中池長大司教様の激励もいただきました。お陰様でこの7年間でのコース受講者は未信者だった31名を含め計47名の多くを数えるに至りました。受洗された方も12名となりまた受洗予備軍（コース終了後、引き続き松本神父様の聖書講座を学んでおられる方）が6名おられます。こんなに沢山の皆さんが新たに私たちの仲間になっていただいたと、神様への感謝の気持ちで一杯です。本年も5月中旬から来年の3月まで、第1、第3、第4土曜日の10時から13時までの約3時間、カール記念館1階ホールでの開催を予定しています。途中夏休み、冬休みを取り入れ、日程的にはゆとりを持たせています（参加希望者には後日、詳細スケジュールのご案内を差し上げます）。以下の文章を読まれ、このコースの趣旨等に共感された方、また一緒に信仰の旅を試みたいと思われる方、私たち一同歓待させていただきます。

さて「アルファ・コース」ってプロテスタント信者のためのものでないの、と疑問を持たれる方もおられると思います。たしかにはじめの数年間プロテスタントが主流の教会で使われてきました。しかし1996年以来、カトリックでもアルファを使う小教区が急増し、今ではカトリック・アルファ事務局も設立されて、アルファに興味を持っている小教区に援助とサポートをしているとのことなのです。

2005年に御受難会の来住神父様が「アルファとカトリック 質疑応答」の小冊子を出版されましたが、故白柳枢機卿はこのパンフレットの推薦の言葉の中で次のように述べられています。「このコースでキリスト教の基本的な教えを学んだ方々が教会に迎え入れられ、さらに秘蹟などについてカトリックの教えを学んでおられるというニュースに喜んでいきます。

カトリック教会の信者たちが、このコースによって恵みを受け、さらには教会を訪れるイエス・キリストを知らない方々に喜びの福音を伝える使者となりますよう、カトリック教会におけるアルファ・コースの上に神の祝福をお祈りします」と。

また、来住神父様ご自身も「アルファの主要な目的はキリスト教の信仰の基本、つまり父である神の理解、イエス・キリストの理解（受肉、死と復活）、聖霊の賜物の理解などを伝えることです。これらは使徒信条に表現されている古来からの信仰ですから、カトリックの教えと矛盾することはありません」と述べられていますので、ご理解いただければと思います。

ここで、このアルファ・コースの特徴をALPHAに例えて述べさせていただきます。

- 興味ある人は誰でも参加できる (A : Anyone Interested)
- そこに学びと笑いがある (L : Learning and Laughter)
- 食事を共にして人間関係を良くする (P : Pasta)
- 相互に助け合って進めることで、励まされ、皆がさらに積極的に関わることができる。 (H : Helping one another)
- 何でも質問できる。問いを学んだ後、小グループでは質問を出し合ったり、関連するトピックについて話し合える (A : Ask anything)



このアルファ・コースで、現在行っている活動内容について紹介します。

(1) アルファ・コースの主要テキスト(DVD)での学び。

英国聖公会、ホーリー・トリニティ・プロンプトン教会のニッキー・ガンベル牧師とそのスタッフによって作製されたもので、キリスト教信仰の初心者、キリスト教を一から勉強したいと思われている方、さらにもっと信仰を深めたいと考えておられる方たちを対象にしています。テキストに用いられているビデオ(1話約40分)には「キリスト教とは」、「イエスとは」、「神の導きとは」、「聖霊とは」、「人生を最高に生きるとは」等、15の話が収められており、ガンベル牧師のユーモアに満ち溢れたトークで、事例も沢山用いられており、非常に親しみ易く、いつの間にか話の中に引き込まれるといった感じです。

私自身何回見たか分かりませんが、見るたびに新しい発見、新たな感動を覚えています。

(2) NHK・Eテレビ「心のともしび」からの学び

① 井上博嗣神父の話

「聖書に学ぶ」(DVD)には旧約聖書に関する話も含めて24話で構成されていますが、このアルファ・コースでは新約聖書の部分について学んでいます。1話約13分で「己を捨てる」「愛の掟」、「へりくだる者は高められる」、「十字架上でのイエス」、「イエスの復活」等、16話があり、聖書について基本的な考え方、日常生活への生かし方等非常にわかりやすく解説してくれています。聖書を理解する上でも大いに役立っています。

② Sr. 渡辺和子の話

シスターは2.26事件の時、目の前で父親が射殺され、若くしてノートルダム清心学園理事長になられた方です。2012年には「置かれた場所で咲きなさい」を出版され130万部以上の大ベストセラーとなったことは皆さんもよくご存じのことと思います。「キリストの香り」(DVD)には「いつも喜んでいなさい」、「絶えず祈りなさい」、「どんなことにも感謝しなさい」、「人生の穴と向き合う」、「幸せのひけつ」等、24話(1話約13分)の中には、私たちが生きていく上で最も大切なことについて切々と話されており、私たちの人生観をより高め、心を豊かに暖かくするための最高の教材ではないかと思っています。

(3) 分かち合い

アルファ・コースの中で最も大切な時間です。一人一人がビデオを見て心に残ったこと、感動したこと、これまでの人生を振り返って反省すべき点等々、お茶を飲み、ヘルパーの方が心を込めて作ってくれたケーキをいただき、或いは食事を共にしながら、お互いが心を開いて時には笑い、時には涙し、分かち合いを行っています。

時間が足りない時もありますが、お互いを理解する上で心おきなく話し合いが出来たときの喜びは、何物にも代え難い至福のひとつとなっています。

教会は一つの家族とよく言われますが、このような小グループの分かち合いが沢山出来、本当に心が一つになった教会を一日千秋の思いで待ち望んでいます。

(4) 合同同窓会

これまで受講された方々が一同に集まった同窓会を、その年に受洗された方の祝賀を兼ねて年一回行っています。イエス様に関する映画(これまで「十戒」、「偉大な生涯の物語」、「クオ・ヴァディス」、「キングオブキングス」、「聖衣」、「ヨハネの福音書」等)を見、会食をしながら各自の近況報告をして楽しい時間を過ごしています。なお、(2)、(4)は池田教会独自のプログラムで、他教会のアルファ・コースの活動には含まれていません。

私自身、この7年間を振り返ってみると、イエス様がいつも一緒にいてくれて、慰め、励まし、助けてくれていることを日々痛切に感ずることが出来るようになりました。

この喜びを皆さんと一緒に味わいたい、そして信仰の旅と一緒に続けたい、そんな気持ちで一杯です。これからもアルファ・コースをよろしく願います。



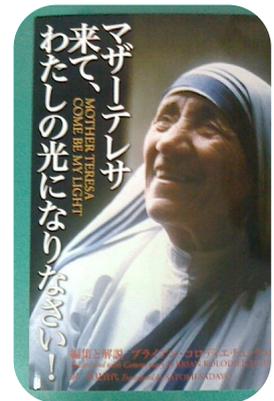
連絡先： 松下 TEL 072-751-0160  
(携帯) 090-8650-7179

以上

新しい本が届きました

『マザーテレサ来て、わたしの光になりなさい!』  
(サン・パウロ、2013)

初めて公開された私的書簡。あの笑みのかげに、  
マザーテレサの闇と苦悩。



『続・人はみな、けなげに生きている』森 一弘 編著  
(サン・パウロ、2014)

人は弱く、傷つきやすく、人生は複雑で、時として、残酷である。  
神様は、そんな人と共におられる。人々の生きざまが、語られて  
いる。



『聖書人名小辞典』 ハンス・シュモルト著、高島市子訳。  
(創元社、2014)

教養主義の香り高いドイツのレクラム文庫版に準拠。

『信仰に生きる 典礼暦に沿って』 京都司教区聖書委員会  
企画編集 (サン・パウロ、2014)

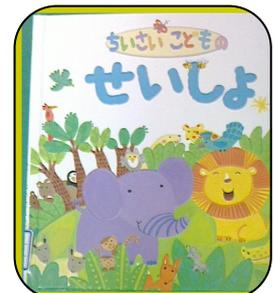
人生の過酷さに生きる人々へのインタビューと、生きてい  
くための光と力と希望。



『カトリック聖書注解 マルコによる福音書』  
メアリー・ヒーラー著、田中 昇訳、湯浅俊治 監修  
(サン・パウロ、2014)

『サンタ・マリアの御像はどこ? プチジャン司教の生涯』  
谷 真介 著 (女子パウロ会、2014)

『アルフォンス・デーケンの希望の便り』  
アルフォンス・デーケン著 (サン・パウロ、2014)



『カトリック要理 Q & A』大山 繁 著、  
シェリー・山浦/イラスト (サン・パウロ、2014)

『ちいさいこどもの せいしょ』ロイス・ロック/文、  
ケイ・ウイドーソン/絵、かげやま あきこ/訳  
(サン・パウロ、2014)



『ありがとうさん』 こんのひとみ/作、いもとようこ/絵、  
(金の星社、2015)

借り出した本は本棚の **新着図書** でのコーナーに戻してください。

## 宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

### ■ 日帰り黙想会

4月16日(木) 10:00 ~ 15:30 指導: 山内十束神父

4月17日(金) 10:00 ~ 15:30 指導: 山内十束神父

### ■ 一泊黙想会

4月25日(土) 17:00 ~ 26(日) 15:30 指導: 山内十束神父

### ■ 聖週間 黙想会

4月2日(木) 17:00 ~ 5日(日) 朝食後 指導: 山内十束神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111



## 「みことばの分かち合いの体験記」の原稿を募集!

「みことばの分かち合い」は月初め(第一日曜日)のミサ後にカトリック池田教会の信徒会館で開かれます。そこでは、福音から主の語りかけを聴き、主や共同体の方々と思いや感動、視点の分かち合いが生まれ、みことばを生活や共同体活動に活かす契機となったでしょうか。「からしだね」に掲載する「みことばの分かち合いの体験記」の原稿を募集しています。毎月の「からしだね」に福音箇所と日付を付して体験記を順次掲載する予定です。

原稿のサイズ: 550字以内(タイトルと執筆者名もしくはペン・ネームを含む)

締め切り : 第三日曜日の翌日

提出先 : 広報委員会(karashidane@ark.zaq.jp宛、または、お近くの広報委員へ御堂のレター・ケースへ、郵送で)。氏名と連絡先を明記してください。

広報委員会



## 編集後記

何年か前にシスターから聞いた話が印象深いのでお話しします。或る4人兄弟がいました。一番上が長女、一番下は長男、この長男は仕事に就いても長続きせず、お金がなくなってくると長女に借りる。そんな弟の暮らしぶりを長女は心配し、その事で困ってもしました。でも状況は変わる事のないまま弟は50歳になりました。そうして病にかかったのです。重篤で亡くなりました。50代でした。亡くなる際に弟は長女に言いました。「お姉さんに一番心配をかけました。」その一言で今までの苦しみ、たいへんと思っていた気持ちがすべてなくなった、というのです。シスターは、ただ時が過ぎるのではない。その働きがあると仰いました。御父は仰せられます。「わたしは美しい愛と畏れとの母、また知識と清らかな希望の母であって、神から召された者、すべてのわたしの子供たちに、代々に自分自身を与え続ける。」シラ書24章18節  
智慧がわたしたちの間に住み、悟らせてくださる。

セシリア